教育課程（カリキュラム）

1．教育課程（カリキュラム）表の見方

教育課程（カリキュラム）表とは、各学類のページにて卒業必修科目や資格要件、学修目標について記載しているものになります。カリキュラム表には履修登録や、資格取得、卒業の際に大切な情報が掲載されていますので、各自必ず確認してください。

●カリキュラム表項目

科目区分	ナンバリング	授業科目名	開講年次	単位数	修得要件	授業形態	学修目標									
							共感力	倫理観・社会的責任感	コミュニケーション能力	知識・技能	批判的思考力・創造的思考力	グローバルな視野・地域的志向	自己管理能力	協働力	挑戦する力	○○力	○○○力
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧									⑨	

●項目の概要

① 科目区分	到達目標を達成するために教育課程をいくつかの区分に分けて、編成しています。
② ナンバリング	カリキュラム区分、分野、レベルに応じ、ナンバーにより分類することで、学修の段階や順序などを表しています。(p.46 参照)
③ 授業科目名	科目名
④ 開講年次	表記している学年以上の学生が履修することができます。
⑤ 単位数	授業科目の単位数を記載しています。なお、卒業要件単位数に換算されない「自由科目」の単位数は（ ）で表記します。
⑥ 修得要件	卒業するために必要な条件単位数を記載しています。
⑦ 授業形態	講義や実験・実習などの授業形態を示し、講義科目は「講」、実験・実習科目は「実」、演習科目は「演」と記載しています。
⑧ 学修目標 (全学共通)	科目を履修することにより、どのような能力を身につけることができるかを、ディプロマ・ポリシーとの関連性で可視化したもの（カリキュラム・マップ）です。もっとも関連性の深い項目には「◎」、関連性のある項目には「○」を記載しています。
⑨ 学修目標 (各学類)	全学共通の項目が９つある他、専門教育科目には３～４つの学類独自の項目があります。

2．学修目標

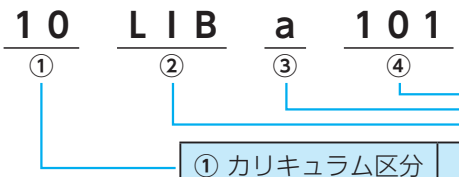
授業を受講することにより、みなさんが身につけられる力は以下の通り９項目あり、このほかにも学類独自に身につけられる力もありますので、カリキュラム表及びシラバスを確認してください。

共感力	相手の感情、思考、行動を理解・受容し、その人の立場に立って配慮した行動をとることができる。
倫理観、社会的責任感	自己の良心と、社会の規範やルールの趣旨を理解した上で、それらに従って適切に行動でき、自ら積極的に提案したり関与したりすることができる。また、自ら内省し、他者のもつ倫理観や考え方を尊重する行動もできる。
コミュニケーション能力	他者の主張と自分の意見や考えを話し合いしながら調整して、互いに納得できる結論を導き出した上で、新たな信頼関係や協働につなげることができる。
基礎的・汎用的知識やスキル （専門分野に限らず一般教養も含む）	修得した様々な知識を総合的に理解し、その関連を説明できる。また、新たな情報も加え、自身の目標達成や社会的・公共的な目的のために活用することができる。
批判的思考力・創造的思考力	課題に関する客観的な情報や様々な意見などに対して、自分の先入観・偏見に留意しながら批評ができ、独自の仮説・アプローチで検討する、または新しい構想や提案を行うことができる。
グローバルな視野・地域的志向	地域社会および国際的な視点を身に付けたうえで、それらの視点を踏まえて現実的課題の解決に向けたビジョンを描き、行動を起こすことができる。
自己管理能力	日常生活の管理を行っており、より具体的な行動計画を立てて行動することができる。予想外の事態に臨機応変に対応できる。
協働力	自ら他者に働きかけ、課題解決など全体の目標達成のためチームを動かし、率先して行動することができる。
挑戦する力	常により高い目標を定め、達成しようと努力する。失敗しても改善のための方策を検討し、あきらめず繰り返し挑戦する。

3．ナンバリング

ナンバリングとは、授業科目をカリキュラム区分、分野、レベルに応じ、ナンバーにより分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

●教養教育科目で１年生の科目（例）



① カリキュラム区分	② 分野別コード	③ 分野別小コード	④ レベルと科目
10：教養教育科目 20：人文社会学類 30：心理学類 40：子ども学類 50：学校教育学類 60：健康栄養学類	分野を３文字のアルファベットで表記します。	②分野別コードをさらに細かい区分に分ける場合もあります。	１桁目は履修学年、２～３桁目で同一分野・レベル内での順番を示しています。 100 番台：１年次相当科目 200 番台：２年次相当科目 300 番台：３年次相当科目 400 番台：４年次相当科目

●分野

以下の通り、分野によってコードを付与しています。

[教養教育科目]

分　　野	分野別コード	分野別アルファベット
初年次教育（尚絅コア）	FYE	First-Year Education
人文科学	HUM	Humanities
社会科学	SOS	Social Science
自然科学	NAS	Natural Science
芸術・スポーツ	ARS	Arts / Sports
国際	INT	International
地域	TOS	Tohoku Studies
基礎情報	FIS	Fundamental Information Studies
実践情報	PIS	Practical Information Studies
外国語	FOL	Foreign Languages
キャリアライフデザイン	CLD	Career and Life Design

[専門教育科目]

	分野		分野別コード	分野別アルファベット
人文社会学類	学類コア		HSS	Humanities and Social Sciences
	専門基礎	社会	ILCs	Introductory Level Courses
		文化	ILCc	Introductory Level Courses
	専門応用		ALC	Applied Level Courses
		公共社会	c	Contemporary Society
		地域共生	t	Tohoku Studies
		国際文化	i	International Culture
		メディア文化	m	Media and Culture
	総合		THE	Thesis
	学芸員資格課程（自由科目）		CUC	Curator Course
心理学類	学群共通科目		PEB	Psychology and Education , Basic
	心理学基礎科目		BPC	Basic Psychology Courses
	基礎心理学		GPC	General Psychology Courses
	実践心理学		PPC	Practical Psychology Courses
	心理学関連科目		OPC	Other Psychology Courses
	実習演習科目		PRA	Practicum
子ども学類	学群共通科目		PEB	Psychology and Education, Basic
	専門基礎科目		CBS	Child Basic Subjects
	子どもの成長と理解		CDU	Child Development and Understanding
	子どもの保育と指導法		CEM	Childcare and Educational Methods
	子どもと家庭の支援		SCF	Support for Children and Families
	子どもの感性と表現		CSE	Children’s Sensibility and Expression
	実習科目		PTC	Practical Training Courses
	総合科目		THE	Thesis
	自由科目		FES	Free Elective Subjects
学校教育学類	学群共通科目		PEB	Psychology and Education , Basic
	小学校教育科目 教職基礎理解科目		ETB	Elementary school Teacher training Basic
	小学校教育科目 教科及び教科の指導法に関する科目		ETM	Elementary school Teaching Method
	特別支援教育科目		SSE	Special Support Education
	中学校教育科目 教科及び教科の指導法に関する科目（国語）		JJT	Junior high school Japanese language Teaching method
	中学校教育科目 教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）		JPT	Junior high school Physical and health education Teaching method
	教育実践科目		EPS	Education Practice Subject
	専門発展科目		SDS	Specialty Development Subject
	総合科目		SIS	School education Integrated Subject
	自由科目		FES	Free Elective Subjects
健康栄養学類	専門教育科目		HLN	HealthNutrition